

新学系「ビジネス構創学系」開設

新潟工科大学は、地域が抱える課題を技術的・社会的に解決できる人材の育成に力を注ぎ、未知の課題にも柔軟に対応できる未来のイノベーターの育成を目指しています。その一環として、理系・文系の枠にとられない学びを実現する「ビジネス構創学系 地域イノベーションコース」を2026年4月に開設します。これにより、本学は5学系8コース体制へと新たに歩みを進めます。

新コースでは、探究活動やインターンシップなどの実践的な学びを通して、新たな社会価値の創出に挑戦します。地域や企業との連携を深めながら、「工学 × ビジネス × 地域イノベーション」を融合させ、地域社会に新しい価値を生み出していきます。

地域問題を 技術的・社会的に解決する 人材育成にフォーカスする

「工」の文字の形は基礎科学と社会をつなぐと言われていて、理系・文系と分けることなく社会のために役立てる役割があります。そして産業界からは、技術に裏付けられた知識を身につけて、課題を発見し解決方法を探索できる人材が強く求められています。そこで、新たなビジネスを構築し創りだすことのできる学びの場を新設します。地域問題を技術的かつ社会的に解決する人材育成にフォーカスし、未知の課題に対応できる力を持った未来のイノベーターを育成します。



ビジネス構創とは

「地域や企業の課題から新たなビジネスを構築し創り出す」という意味が込められています。



地域イノベーションとは

地域や企業で見つけた課題に対して「工科大の教育研究」から解決策を選び出し、社会へ再び提示していく一連の活動を「地域イノベーション」としています。



学生ものづくり・アイデア展in魚沼市 開催

10月25日(土)、魚沼市総合体育館にて「学生ものづくり・アイデア展in魚沼市」を開催しました。本事業は、新潟工科大学と魚沼市の包括連携協定締結5周年を記念し、「創る、つながる、かなえるー地域とともに」をテーマに、地域と大学が交流する場として企画されたものです。

当日は、県内外の大学から20チームが出展し、研究内容や作品を来場者に紹介しました。また、魚沼市内の企業によるブース出展や、県内工業系高等学校によるポスター展示も行われ、ものづくりの魅力を通じて地域・企業・学生のつながりを深める貴重な機会となりました。



■出展校・企業一覧(順不同)

- 大学：新潟工科大学／石巻専修大学／長岡崇徳大学／新潟大学／新潟職業能力開発短期大学校
 高校：新潟工業／栃尾／十日町総合／新津工業／新潟県央工業／上越総合技術／巻総合／柏崎工業／塩沢商工／長岡工業／小千谷西
 企業：伊米ヶ崎建設(株)／(株)栄工舎／(株)カイセ工業／(株)中村バルブ製作所／(株)新潟プレジジョン／平田バルブ工業(株)／北越建設(株)／ホリカフーズ(株)／(株)理研計測器製作所

企業を訪ねて 22

WeING 株式会社ウイング

「ユーザー主体のDXが未来を拓く」

令和8年1月22日、株式会社ウイング (WeING Co.,Ltd.) 代表取締役社長 樋山 泰三氏をお訪ねし、お客様の“欲しい”を創造し、共に“喜び”共に“発展”する企業理念の取組について伺いました。

聞き手：富永 禎秀

(地域産学交流センター長・工学部建築都市学系教授)

◆日頃より本学の教育研究に対し格別のご支援を賜り、また産学交流会の理事をお引き受けいただくなど多方面にわたりご協力を頂戴しておりますことに、心より御礼申し上げます。



◆ユーザー主体のDXを実現するために

◇ウイングでは、25年程前よりローコード技術を軸に事業を展開してきました。ローコードとは、専門的なプログラミング作業を大幅に簡略化し、効率的にシステム開発を行うための技術です。昨今はこの分野を長年磨き続けてきましたが、近年はそこに生成AIを掛け合わせた新たな挑戦を進めています。

現在、力を入れている取り組みは、お客様の単なる開発効率の向上ではなく、お客様自身がDXを推進できる環境づくりです。生成AIの進化によって、プログラミングの在り方は急速に変わりつつあります。AIと対話しながらコードを生成する、いわゆるAI支援型開発が一般化し、開発スピードは飛躍的に向上しています。

しかし、そこには一つの課題があります。AIによってエンジニアの作業効率は高まるものの、依然として専門知識を持つ人材に依存する構造は変わらないという点です。多くの企業は自社内に十分なIT人材を抱えているわけではなく、結果として外部ベンダーに依頼する構図が続きます。

お客様に課題があって“こういう仕組みが欲しい”と考え、外部委託します。しかし、お金を払った価値に本当に満足しているお客様は、実はそれほど多くないと感じています。外部委託の結果、「お金を払っているのだから思い通りにできて当然」という意識が、仕組みを構築する経営意識を薄めてしまうことが散見され、トラブルの芽があ

ると思います。本来、業務の仕組みは自社の経営そのものです。ユーザー自身が要件を整理し、それが直接実装につながる形が理想だと思います。極論すれば、“私達が介在しないこと”が一番正しいと思っています。これからの私達が担う役割として、誰もが活用できる基盤を提供しながら伴走する役割へと変わっていきようとしています。プログラミングそのものを主軸にするのではなく、お客様が自ら使いこなせる仕組みを支える存在となるのが、これから提供するサービスの開発の鍵になると考えています。

◆人が育つ仕組みをつくる

◇こうした変革を支えるのは人材です。ウイングの行動指針『情熱と陽転思考で 素直な心と自由な発想で 新しい技術と情報を駆使して 夢と目標に向かって 仲間を信頼し力を合わせ 全力で人生に取り組もう』は、社員が目指す姿として共有されています。

人材育成では、半年ごとに目標を設定し、3年間を一つの成長サイクルとしてスキル向上を図っています。オンライン教材を活用しながら不足しているスキルを明確にし、計画的に学習を進めます。毎月の1on1ミーティングでは対話を重視し、成長の方向性を確認します。ダメ出しではなく、日常的な対話の中で気づきを得る仕組みを整えています。

◆コトづくりの時代に求められる大学の役割

◇ウイングでは、インターンシップも積極的に受け入れています。学生主体で採用の仕組みづくりに取り組んでもらった事例では、企業側も多くの学びを得ました。固定観念を揺さぶられ、学生目線からの率直な意見に触れることで、自社の在り方を見直す機会になりました。インターンシップは、受入準備や対応の手間は確かにありますが、それ以上の価値があると感じています。

新潟工科大学の卒業生には、大学で身につけたスキルやノウハウを、新潟県内の企業で存分に発揮してほしいです。業種に関わらずAIを使いこなす基盤力は重要です。将来的には、企業ごとのAIエージェントを構築できる人材が求められる時代になると予測しています。プログラムを書く技術だけでなく、AIを活用して経営や人事、営業を支える仕組みを設計できる力。そして“モノづくり”の先にある“コトづくり”が重要だと思います。好奇心から課題を見つけ、構想し、形にし、チームで実装する活動。その駆動力こそが、これからの価値になります。受け身ではなく、自ら問いを立てる人材が必要です。技術はAIが補ってくれるかもしれませんが、だからこそ、人の意志と発想がより重要になるのです。

◆本日は、大変貴重なお話を伺うことができ、誠にありがとうございました。

産学連携事例のご紹介

■ 題 目 / 独自換気システムを備えた住宅実験棟における室内空気環境の定量評価

ISHIKAWA



株式会社 イシカワ

- 代 表 者 / 代表取締役 石川 幸夫
- 所 在・設 立 / 新潟県新潟市・1947年設立
- 事 業 内 容 / 土木工事・建築工事・管工事・
内装工事・不動産取引業・介護事業



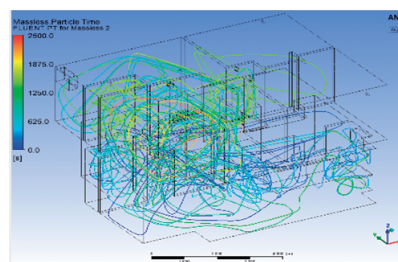
新潟工科大学

NIIGATA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

- 研究者 / 建築都市学系 教授 富永 禎秀
- 専 門 / 建築・都市環境工学、風工学
- 研 究 / 乱流の数値シミュレーション、
建築・都市の風環境の予測と評価

▶ 共同研究のきっかけ

株式会社イシカワでは、独自に開発した換気システム「ブローボックス」を通じて、住宅内の空気環境をより快適に保つことを目指してきました。一方で、その効果については経験的な評価にとどまっておらず、気流や換気性能がどのように改善されているのかを科学的に示したいという想いを同社代表が強く持っていました。そこで、数値流体力学（CFD）解析や環境計測を用いて住宅内の空気の流れを可視化・定量化できる本学と連携し、実在するモデルハウスを対象とした検証を行うこととなりました。こうして、ブローボックスの性能評価を出発点として、換気方式や建物仕様の違いが居住環境に及ぼす影響を多角的に検討する一連の共同研究が始まりました。



CFD解析によるモデルハウス内の気流の可視化結果



2024年に建設された住宅実験棟

▶ 研究内容と成果

本共同研究では、換気方式や仕様の異なる住宅を対象に、CFD解析による気流・換気性状の可視化と、温熱環境の実測調査を組み合わせた検討を段階的に進めてきました。これまでに、ブローボックスを含む換気システムの特性が室内の空気の流れや換気効率に及ぼす影響を数値的に評価し、設計条件の違いによる傾向を整理しています。さらに2024年には、同社が本社近くに建設した、換気方式や建物仕様の異なる2棟の実験棟を対象として、長期の温熱環境観測とCFD解析を開始しました。実測と解析を相互に照合することで、居住環境を定量的に評価する枠組みが構築されつつあり、設計実務への応用が期待されています。

▶ 企業担当者のコメント

株式会社イシカワ 代表取締役 石川 幸夫 様

当社では、建物中心部の軸流ファンと各室の吸気ファンを組み合わせ、建物全体の空気を1時間に5～6回循環させる「内壁循環方式空調」を開発しました（米国特許取得）。この独自の循環システムが実際に建物内の気流や換気性能にどのような効果をもたらしているのかを、より客観的・科学的に把握したいとの思いから、新潟工科大学との共同研究をお願いしました。専門的なCFD解析や実測に基づく検討により、空気の流れを可視化し、技術への理解が一層深まっています。大学のご協力に大変感謝しております。

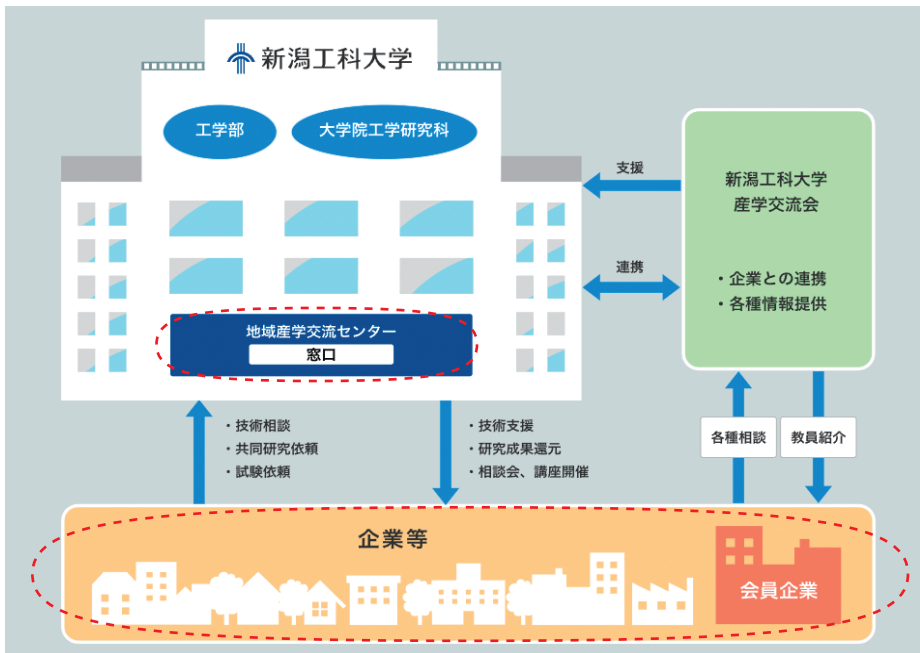
本学では、多様な専門分野を持つ教員の研究内容や論文などのシーズ情報に加え、企業との共同研究に活用できる実験装置等を公開しています。詳細は「大学リソースデータベース」をご覧ください。

【相談窓口】 新潟工科大学 地域産学交流センター
TEL : 0257-22-8110、FAX : 0257-22-8123
E-Mail : career-sangaku@adm.niit.ac.jp

詳細はこちら



新潟工科大学 地域産学交流センターのご案内



地域産学交流センターは、企業からの共同研究や技術相談などを受け入れ、多くの成果を上げてきました。

機械・電気・情報・化学・バイオ・建築・土木など幅広い分野で、基礎から実用化まで対応しています。

相談内容や研究テーマに応じて、専門分野の枠を超えて最適な提案を行っています。また、研修会や相談会も開催しながら、地域や産業界との連携を強化しています。どうぞお気軽にご利用ください。

共同研究 本学の研究者と企業等の研究者が、共通の研究課題に取り組み、共同で研究を行います。

受託研究 企業等から委託された課題について、研究・調査・設計・試験・試作等を行います。

試験委託 企業等から委託された課題について、本学の機器・設備を利用して実験・測定を行います。

その他 企業向け出前講座／産学交流オープンカフェ／企業訪問／学生×企業との交流会等を行います。

企業向け出前講座のご案内

新潟工科大学では、教育や研究の成果を企業の技術教育に普及・還元することにより、地域の産業界の発展に資するため、社員向けの出前講座（技術研修セミナー）に講師を派遣させていただきます。希望の講座がございましたらお問い合わせのうえ、お申込みください。

【講座時間】

- ・ 1回あたり60～90分、1日に複数回の実施が可能です。

【講座形式】

- ・ 対面またはオンデマンド配信、ハイブリッド形式などご相談が可能です。

【講座費用】

- ・ 1回あたり30,000円（産学交流会会員企業）、60,000円（産学交流会非会員企業）／別途、交通費等

詳しくはこちら



編集後記

2025年に大阪・関西万博が開催され、未来の暮らしを思い描く話題が各所で聞かれました。最新の技術やアイデアに触れながら、「これからの社会はどのように変わっていくのだろう」と改めて考える1年でもあったように思います。

一方で、海外ではトランプ関税の発表など、経済を大きく揺るがすニュースもありました。私たちにとっても決して無関係ではなく、世界の動きが身近な暮らしにまで影響を及ぼす時代であることを実感させられました。

そのような中、新潟工科大学では「未来ビジョン2050」を掲げ、「企業とともに、世界で活躍できる技術者を育てる」という思いを大切にしながら、地域や企業と大学が共に歩む取り組みを進めています。本号で紹介した活動が皆さまのヒントや励みとなれば幸いです。

これからも地域産学交流センターでは、地域・企業と大学をつなぐ情報をお届けしてまいります。

■発行

新潟工科大学地域産学交流センター広報誌 第21号
2026年3月31日
新潟工科大学地域産学交流センター運営委員会

■連絡先

新潟工科大学地域産学交流センター
〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719
新潟工科大学 キャリア・産学交流推進課内
TEL: 0257-22-8110
FAX: 0257-22-8123
E-mail: career-sangaku@adm.niit.ac.jp

